

## 平成29年度の事業報告書（案）

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム

## 1 事業の成果

平成29年度は、研究者、技術者及び一般市民に対して、原子分子データに関する基礎、応用分野の研究開発に関する発表会として、「原子分子データ応用フォーラムセミナー」を、核融合科学研究所「原子分子過程研究と受動・能動分光計測の高度化のシナジー効果によるプラズマ科学の展開」研究会と合同で開催した。原子分子物理の基礎研究、核融合、宇宙から環境、光源、プロセス、バイオ・医療・農業などにおける原子分子過程、原子分子データを取り上げ、基礎と応用の仲立を図り、現象のより良い理解、研究開発への寄与を図ることを目指しセミナーを行った。

また、「プラズマシミュレーションに用いるレート係数の推算方法の調査」分科会、ソーシャルネットワークサービス（SNS）の活用に関する作業部会の活動を継続して行うとともに、会報を発行するための取材、編集活動を行った。

これらの活動の基礎の上に、本年度の「原子分子データ応用フォーラムセミナー」では、Technical Working Group（TWG）における議論により「半導体製造、プラズマプロセスと原子分子過程、分光研究とのかかわり」特別セッションを設定し、それに合わせて招待講演者の選定、プログラムの編成を行うとともに、参加者からのフィードバックの収集を行った。セミナーのプログラム等の情報を、インターネットを通じて発信し研究の内容の迅速な普及につとめるとともに、参加者の間のネットワーキングの構築を進めた。また、学生の参加者の研究発表、質疑を通して分野の専門家を育成に寄与する活動を行った。

以上の活動により、会員である原子分子データの生産者と利用者の間で活発な討論が行われ、一般市民に対しても原子分子データの利用、普及に寄与する活動ができたと考えている。

## 2 事業の実施に関する事項

## (1) 特定非営利活動に係る事業

事業名 (定款に記載した事業)	具体的な事業内容	(A) 当該事業の 実施日時 (B) 当該事業の 実施場所 (C) 従事者の人数	(D) 受益対象 者の範囲 (E) 人数	事業費の金額 (単位：千円)
(1) 原子分子データベースの構築と利用・普及を推進するための事業	フォーラムの活動方針、分科会活動、データベースの構築、利用、普及についての検討会の開催	(A) 平成29年 4月29日 (B) 核融合科学研究所および首都大学東京 (C) 4	(D) 研究者、 技術者 (E) 20	0

	原子分子物理の基礎研究、核融合、宇宙から環境、光源、プロセス、バイオ・医療・農業における原子分子データ、原子分子過程についての検討会の開催	(A) 平成 29 年 8 月 4 日 (B) 核融合科学研究所および首都大学東京 (C) 4	(D) 研究者、技術者、一般市民 (E) 20	0
	原子分子物理の基礎研究、核融合、宇宙から環境、光源、プロセス、バイオ・医療・農業における原子分子データ、原子分子過程に関する「原子分子データ応用フォーラムセミナー」の開催	(A) 平成 29 年 12 月 20-22 日 (B) 核融合科学研究所 (C) 17	(D) 研究者、技術者 (E) 70	267
(2) 原子分子データの生産者と利用者に対するインターネットを活用した情報の提供および、相互のコミュニケーションを促進するための事業	原子分子データ応用フォーラムホームページ、メーリングリストの整備	(A) 随時 (B) 法人事務所 (C) 2	(D) 研究者、技術者、一般市民 (E) 500	16
	原子分子データに関する研究情報、会合情報などのホームページへの掲載	(A) 随時 (B) 法人事務所 (C) 2	(D) 研究者、技術者、一般市民 (E) 500	0
	機関誌の発行および配布の準備	(A) 随時 (B) 法人事務所 (C) 4	(D) 研究者、技術者、一般市民 (E) 500	0
(3) 国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会の開催、共催、協賛に関する事業	ISPlasma 2018 会議の協賛	(A) 平成 30 年 3 月 4 日-3 月 8 日 (B) 名城大学 (C) 1	(D) 研究者、技術者、一般市民 (E) 400	0

## 平成29年度 活動計算書

平成29年 4月 1日から平成30年 3月31日まで

単位：円

特定非営利活動法人 原子分子データ応用フォーラム

科 目	金 額		
I 経常収益			
1 受取会費			
正会員入会金	0		
正会員受取会費	0		
賛助会員受取会費	30,000	30,000	
2 事業収益			
1)原子分子データベース構築、普及事業収益	85,500		
2)インターネット情報提供事業収益	0		
3)国際会議、シンポジウム等開催事業収益	0		
4)国内外における研究連携窓口事業収益	0		
5)国際会議等への講師紹介派遣事業収益	0		
6)教育プログラム開発、教育支援事業収益	0		
7)書籍、機器、ソフトウェア等紹介事業収益	0		
8)書籍、電子媒体、グッズ等製作販売事業収益	0	85,500	
3 受取寄付金			
受取寄付金	32,759		
ボランティア受け入れ評価益	161,000		
施設等受け入れ評価益	10,500	204,259	
4 その他収益			
受取利息	0		
雑収益	0	0	
経常収益計 (A)			319,759
II 経常費用			
1 事業費			
(1)人件費			
給料手当	0		
ボランティア評価費用	161,000		
人件費計	161,000		
(2)その他経費			
セミナー事業費	96,059		
通信運搬費	15,768		
施設等評価費用	10,500		
その他経費計	122,327		
事業費計		283,327	
2 管理費			
(1)人件費			
役員報酬	0		
給料手当	0		
人件費計	0		
(2)その他経費計			
備品費	0		

	消耗品費	0		
	通信費	992		
	賃借料	45,983		
	諸会費	0		
	交際費	0		
	租税公課	0		
	支払手数料	0		
	雑費	0		
	その他経費計	46,975		
	管理費計		46,975	
	経常費用計（B）			330,302
	当期経常増減額（A）－（B）			▲ 10,543
Ⅲ	経常外収益			
	1 固定資産売却益		0	
	経常外収益計			0
Ⅳ	経常外費用			
	1 過年度損益修正損		0	
	経常外費用計			0
	税引前当期正味財産増減額			▲ 10,543
	法人税、住民税及び事業税			0
	当期正味財産増減額			▲ 10,543
	前期繰越正味財産額			133,215
	次期繰越正味財産額			122,672

## 計算書類の注記

### 1. 重要な会計方針

計算書類の作成は、NPO法人会計基準（2010年7月20日 2011年11月20日一部改正 NPO法人会計基準協議会）によっています。

#### (1) 施設の提供等の物的サービスを受けた場合の会計処理

施設の提供等の物的サービスの受入れは、活動計算書に計上しています。

また計上額の算定方法は「2. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳」に記載しています。

#### (2) ボランティアによる役務の提供

ボランティアによる役務の提供は、活動計算書に計上しています。

また経常額の算定方法は「3. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳」として注記しています。

### 2. 施設の提供等の物的サービスの受入の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
核融合科学研究所会議室の無償利用	10,500	核融合科学研究所では利用料金を設定していないため、多治見市産業文化センターおよび多治見市文化会館小会議室の利用料(1時間当たり600円と400円)の平均値500円 x 利用時間数21時間=10,500円により算定しています。

### 3. 活動の原価の算定にあたって必要なボランティアによる役務の提供の内訳

(単位：円)

内容	金額	算定方法
非会員によるフォーラムセミナーでの情報提供 7,000円 x 23人	161,000	単価は大学等教員への20分の講演発表謝礼の相場により算定しています。

## 平成29年度 貸借対照表

平成30年 3月31日現在

特定非営利活動法人 原子分子データ応用フォーラム

科 目 ・ 摘 要	金 額（単位：円）		
I 資産の部			
1 流動資産			
現金	15,413		
普通預金 十六銀行妻木下石支店	46,020		
普通預金 郵貯銀行	31,239		
未収会費	30,000		
流動資産合計		122,672	
2 固定資産			
（1）有形固定資産			
什器備品	0		
有形固定資産計	0		
（2）無形固定資産			
ソフトウェア	0		
無形固定資産計	0		
（3）投資その他の資産			
定期預金	0		
投資その他の資産計	0		
固定資産合計		0	
資産合計			122,672
II 負債の部			
1 流動負債			
未払い金	0		
流動負債合計		0	
2 固定負債			
長期借入金	0		
固定負債合計		0	
負債合計			0
三 正味財産の部			
前期繰越正味財産		133,215	
当期正味財産増減額		▲ 10,543	
正味財産合計			122,672
負債及び正味財産合計			122,672

## 財産目録

平成30年 3月31日現在

特定非営利活動法人 原子分子データ応用フォーラム

科 目 ・ 摘 要		金 額（単位：円）		
I 資産の部				
1 流動資産				
現金預金				
手元現金		15,413		
普通預金 十六銀行妻木下石支店		46,020		
普通預金 郵貯銀行		31,239		
未収会費 H29年度会費		30,000		
流動資産合計			122,672	
2 固定資産				
(1)有形固定資産				
什器備品				
有形固定資産計		0		
(2)無形固定資産				
ソフトウェア		0		
無形固定資産計		0		
(3)投資その他の資産				
定期預金		0		
投資その他の資産計		0		
固定資産合計			0	
資産合計				122,672
II 負債の部				
1 流動負債				
未払い金		0		
流動負債合計			0	
2 固定負債				
長期借入金		0		
固定負債合計			0	
負債合計				0
正味財産				122,672

平成 30 年度 事業計画案（平成 30 年 4 月 1 日～平成 31 年 3 月 31 日）

特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム

## 1. 事業実施の方針

平成 30 年度は、研究者、技術者及び一般市民に対する、原子分子データに関する基礎、応用分野の研究開発に関する発表会として、「原子分子データ応用セミナー」を開催し、その成果をまとめた資料集（CD を含む）の発行、ホームページでの公開を行う。半導体製造、光源などの応用技術、バイオ・医療、農業、環境などの応用分野におけるさまざまな研究で重要な原子分子過程を取り上げ、セミナーを開催する。核融合科学研究所の原子分子データに関する研究会活動と連携し、基礎と応用の間の有効な仲立ちを図るためのセミナーの運営方法について検討し、Technical Working Group（TWG）を設置し企画を行う。そして、基礎と応用の研究者、技術者の間で議論、情報交換を行う環境の整備を行う。

セミナーに加えて、原子分子データのニーズとシーズのマッチングを図るための事業について検討する。まず EUV リソグラフィなどの現在重要な技術の中から適当な課題を選び、具体的な講習会などの企画について、科学、技術的な内容と、予算などの事業の内容を検討し、それを実施するための特定非営利活動法人の今後の運営方針を決定する。会員およびニーズ、シーズを持つ大学、研究機関、企業の研究者、技術者に対する調査、意見集約を行う。

「プラズマシミュレーションに用いるレート係数の推算方法の調査」分科会、「SNS の活用に関する作業部会」の活動を継続して行う。

会報に関し、原子分子データのシーズを提供する研究室の紹介の連載を開始し、会報を活用した原子分子データのニーズとシーズのマッチングの促進を図る。

フォーラムの持続的な活動を実現するため、事業内容や収入手段についての検討を行う。

これらの活動を通して科学技術の促進、知識の普及、原子分子データに関する基礎、応用分野の研究開発の進歩並びに知識の普及を図る。

## 2. 事業の実施に関する事項

### (1)特定非営利活動に係わる事業

事業名	事業内容	実施 予定 日時	実施予 定場所	従事者 の予定 人数	受益対象者 の範囲及び 人数目標	支出見込み 額 (千円)
(1)原子分子データベースの構築と利用・普及を推進するための事業	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発に関する「原子分子データ応用セミナー」の開催	12 月	核 融 合 科 学 研 究 所	10 人	研究者、技術者及び一般市民（80 人）	90
	「原子分子データ応用セミナー」の講演資料集及 CD の製作	1 月	法 人 事 務 所	2 人	研究者、技術者及び一般市民（200 人）	10



	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発動向調査および、法人運営方針を議論する検討会の開催	5月、9月	核融合科学研究所	5人	研究者、技術者(50人)	0
	国内外の原子分子データベース活動の情報の集約と普及活動	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	0
	「ブラズマシミュレーションに用いるレート係数の推算方法の調査」分科会の活動。	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者(50人)	0
						(1)支出合計予定 100
(2)原子分子データの生産者と利用者に対するインターネットを活用した情報の提供および、相互のコミュニケーションを促進するための事業	原子分子データに関する、インターネット上のホームページ、メーリングリストの運営	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	16
	「SNS活用に関する作業部会」による、コミュニティ構築、「研究者データベース」「欲しいもののリスト」構築の検討	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者(50人)	0
	原子分子データに関する研究情報、会合情報などのホームページへの掲載及び、機関誌の発行及び配布	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	0
						(2)支出合計予定 16
(3)国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会の開催、共催、協賛に関する事業	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発に関連が深い、国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会の共催、協賛。	随時	法人事務所	1人	研究者、技術者及び一般市民(200人)	0
(4)国内外における研究活動連携のための窓口事業	原子分子データに関する研究活動連携を推進するためのシーズとニーズに関する情報紹介	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者(100人)	0
(5)国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会への講師の紹介と派遣に関する事業	原子分子データの基礎、応用分野の研究開発に関連が深い、国際会議、シンポジウム、研究会、講習会、研修会への講師の紹介、派遣。	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(100人)	0
(6)教育プログラムの開発及び教育の実施の支援に関する事業	原子分子データに関する教育プログラムの開発と教育の実施を支援する。	随時	法人事務所	1人	研究者、技術者及び一般市民(100人)	0
(7)書籍、研究開発用機器、ソフトウェアの紹介に関する事業	インターネットホームページ、機関誌において、書籍、研究開発用機器等の紹介。	随時	法人事務所	1人	研究者、技術者(50人)	0
(8)書籍、ソフトウェア、データ集等の電子媒体その他の販売に関する事業	原子分子データの基礎、応用研究に関する資料、解析用ソフトウェア、データ、および啓発、知識普及のためのグッズの製作、輸入、販売を行なう。	随時	法人事務所	3人	研究者、技術者及び一般市民(100人)	0

## 平成 30 年度特定非営利活動に係る事業会計収支予算書（案）

平成 30 年 4 月 1 日から平成 31 年 3 月 31 日まで

（単位 円）

特定非営利活動法人原子分子データ応用フォーラム

科 目 ・ 摘 要		金 額		
I 収入の部				
1 会費・入会金収入				
入会金収入	10,000			
会費収入	60,000	70,000		
2 事業収入				
(1) 原子分子データベース構築、普及事業収入	90,000			
(2) インターネット情報提供事業収入	0			
(3) 国際会議、シンポジウム等の開催事業収入	0			
(4) 国内外における研究連携窓口事業収入	0			
(5) 国際会議等への講師紹介派遣事業収入	0			
(6) 教育プログラム開発、教育支援事業収入	0			
(7) 書籍、機器、ソフトウェア等紹介事業収入	0			
(8) 書籍、電子媒体、グッズ等製作販売事業収入	0	90,000		
3 その他の収入				
寄付金収入	14,000			
補助金収入	0	14,000		
当期収入合計（A）		174,000		
前期繰越収支差額		122,672		
収入合計（B）				296,672
II 支出の部				
1 事業費				
(1) 原子分子データベース構築、普及事業費	100,000			
(2) インターネット情報提供事業費	16,000			
(3) 国際会議、シンポジウム等の開催事業費	0			
(4) 国内外における研究連携窓口事業費	0			
(5) 国際会議等への講師紹介派遣事業費	0			
(6) 教育プログラム開発、教育支援事業費	0			
(7) 書籍、機器、ソフトウェア等紹介事業費	0			
(8) 書籍、電子媒体、グッズ等製作販売事業費	0	116,000		
2 管理費				
役員報酬	0			
事務所借料	45,176			
備品費	0			
消耗品費	824			
通信費	1,000			
租税公課	1,000			
法人税等	0			
雑費	10,000	58,000		
3 予備費				

予備費	0	0	
当期支出合計（C）			174,000
当期収支差額（A）－（C）			0
次期繰越収支差額（B）－（C）			122,672

## 第 5 号議案 会報担当役員および係の選出

平成 30 年度の会報担当役員および係を以下のように提案する。  
(係の内容：会報の作成および発行)

担当役員 田沼 肇  
担当係 坂上 裕之

## 第 6 号議案 平成 30 年度フォーラムセミナー

平成 30 年度のフォーラムセミナーの開催日程を以下のように提案する。

日時：平成 30 年 12 月 19 日（水）～21 日（金）

場所：核融合研

目的：半導体製造技術からバイオ・医療、農業、環境などの応用に共通の原子分子過程を取り上げ、原子分子データの立場から基礎と応用の仲立を図り、現象のよりよい理解、研究開発への寄与を図り、原子分子データのニーズとシーズのマッチングを図る。昨年度に引き続き、核融合科学研究所の共同研究「原子分子過程研究と受動・能動分光計測の高度化のシナジー効果によるプラズマ科学の展開」（代表 赤塚 洋・東工大）との合同研究会として、TWG (Technical Working Group) を設けて企画を検討して開催し、関係する多くの研究者などの間で情報交換が行えるようにする。

担当役員 佐々木明、村上泉、田沼肇  
担当係 鈴木千尋

## 第 7 号議案 会費の徴収等について、

フォーラムの継続的な運営のため、平成 30 年度定期総会での議決をめざし、今年度、今後行っていく事業の規模や収入源の確保についての検討を行うことを昨年度の定期総会で承認された。

昨年度の定期総会の議案において、今後行う事業について検討し、そのために必要な資本、経費について検討し、行う事業に対して適切な収入を得る方法として、会費を徴収する方法や、有料のセミナーその他の新しい収入源について検討することとした。また、会費であれば適切な金額や会員にとって負担しやすい方法（グラントからの支出）、収入につながる適切な事業、事業を実施するために必要な法律や規則について検討し、会員に対するアンケートを通して意見の集約を図り、30 年度定期総会で実施の決定を行うことを目指すとした。

これを受け、会員に対するアンケート案（資料 6）を作成した。このアンケート調査を、総会后 1 ヶ月程度をめどに実施し、その結果を元に今後の事業等の検討を行う。

担当役員 佐々木明、村上泉

原子分子データ応用フォーラム会員の皆様、  
原子分子データ応用フォーラムの活動に興味を持って下さっている皆様、

特定非営利活動法人 (NPO) 原子分子データ応用フォーラム (<http://www.am-data-forum.com>) では、原子分子データを接点とする研究開発のシーズとニーズのマッチングを目的として、フォーラムセミナー (<http://www.am-data-forum.com/seminar29/seminar29program.html>) の開催などの活動を、2010 年から行ってきました。これからは、活動の成果を、大学、企業の研究開発において具体的に実現する活動が重要と考えています。フォーラムでは、これまで限られた資源で可能な活動を行っていましたが、より相応しい事業のあり方を見いだすことが重要と考えています。

「EUV (Extreme Ultra-Violet: 極端紫外線) リソグラフィ」分野は、原子分子データに関連が深く、フォーラムセミナーでもテーマとして度々取り上げてきました。

EUV リソグラフィは、半導体素子の微細化をさらに進める技術として、いよいよ実用化間近と言われています。この研究開発が進められる間に、半導体製造技術は一層進歩し、CPU、DRAM、NAND フラッシュメモリやさらに新しいデバイスが、新しい技術を総合して作られるようになっていきます。

EUV リソグラフィの実用化のために、(図)に示すような光源、光学系、マスク、フォトレジストなどの各要素技術の研究開発が進められてきました。その特徴は、微細化ということばが意味している通り、使用する光のエネルギーが、従来のエキシマレーザーをもちいる紫外線リソグラフィに比べて光子のエネルギーが 1 桁大きいこと、光源だけでなく、光学系、マスク、フォトレジストなどの技術においても、原子分子スケールの現象が重要になることと考えられます。

実際、レーザー生成スズプラズマの原子物理、原子過程の基礎研究によって発光のメカニズム、発光に必要な条件が明らかになり、光源の実用化のために役立つ成果が得られたことは、原子分子データ応用フォーラムセミナーでこの課題を取り上げるきっかけになりました。

装置の稼働率向上のための光源、ミラーの汚染防止の技術と核融合のプラズマ壁相互作用との関連や、回路パターンを書き込むマスクの精度向上のための X 線顕微鏡等への

核融合分野の計測技術の活用についても議論されています。

フォトリソの分野でも、材料の基礎研究の成果に基づく高感度、高解像度のレジストの開発が行われるとともに、最近では、EUV 光による光電離で生成した電子の挙動やレジスト分子の配向の効果、すなわち高いエネルギーをもつ粒子と物質による放射線化学の重要性が議論されています。

しかし、大学、研究機関のプラズマ物理、原子分子過程の基礎研究者と企業の応用研究者、技術者が協力するプロジェクトがすでに何度か実施されているにもかかわらず、具体的な技術の実現のためには乗り越えなければならない課題も多いと思われます。

今回、「EUV リソグラフィ」分野の重要な課題や、研究開発に役立つフォーラムの事業のあり方を検討するためにアンケートを行うことにしました。みなさまのご協力を賜わることができれば誠に幸に思います。

2018 年 6 月 5 日

原子分子データ応用フォーラム副理事長 佐々木明



(図) EUV リソグラフィ露光機概念図(EUVA の資料による)

レーザー生成プラズマから発生した波長 13.5 nm の EUV 光で回路パターンが書き込まれたマスクを照射し、光学系によってその像をウェハ上に転写し、レジストを感光させる。

(原子分子過程、原子分子データの基礎研究の専門家から見た)

### EUV リソグラフィについてのアンケート

EUV リソグラフィ分野に対する興味について教えてください。

- ☐ EUV リソグラフィとその研究開発課題についてもっと知りたい。
- ☐ 研究開発に参加したい。
- ☐ 課題を教育のために活用したい。
- ☐ 共同研究で開発を促進したい。
- ☐ 研究開発のための人材を得たい。

この分野での興味の対象（知りたい内容や、成果の普及、情報提供したい内容がある課題）について教えてください。

- ☐ EUV 光源
  - ☐ プラズマの原子過程や輻射流体力学の物理
  - ☐ レーザーや放電によるプラズマ発生や制御技術
  - ☐ 光源励起用高出力レーザー
  - ☐ 将来の光源のための加速器技術
  - ☐ ターゲット供給技術
  - ☐ デブリミチゲーション（プラズマから発生する汚染粒子の制御）
- ☐ 材料技術
  - ☐ 光学材料（EUV ミラー用誘電体多層膜、ペリクルの材料など）
  - ☐ フォトレジスト材料
    - ☐ フォトレジスト材料の物性
    - ☐ フォトレジストの放射線化学（高エネルギー粒子との相互作用）
- ☐ 検査技術
  - ☐ マスク検査のためのコヒーレント、インコヒーレント X 線顕微鏡技術
- ☐ 光プロセス技術
  - ☐ 解像度増倍技術（Resolution Enhancement Technology）
- ☐ その他の次世代リソグラフィ技術
  - ☐ ナノインプリントリソグラフィ
  - ☐ 自己組織化リソグラフィ（Directed Self Assembly）
- ☐ その他の研究開発内容  
( )



研究開発のシーズとニーズのマッチングのために必要な活動

- ☐ EUV リソグラフィ技術に関する入門的な講義、チュートリアル
- ☐ 主に企業研究者による技術の詳細についての講義、ニーズ紹介
- ☐ 主に大学研究者による研究成果発表、シーズ紹介
- ☐ 主に若手研究者の発表を通じた教育
- ☐ ポスターセッションによる個別の課題についての討論
- ☐ フリーディスカッションによるブレインストーミング
- ☐ 懇親会による個別かつインフォーマルな情報交換、ネットワーキング
- ☐ YouTube 映像などインターネットによる資料の公開
- ☐ SNS によるグループでの討論
- ☐ Skype 講義などによる個別の議論や指導
- ☐ 教科書の出版
- ☐ データ集の出版

その他原子分子データ応用フォーラムの活動に対するご意見、取り上げるべきテーマ、活動の方法についてご自由にご記述ください。

御協力ありがとうございました。

(記載任意)

お名前 ( )

ご所属 ( )